

環境情報専門委員会(第6回)における議論の概要

環境情報戦略案に対して、以下の意見が出された。

1 環境分野における情報の整備に関する現状と課題

- ・(2) 情報の提供に関する課題について、「課題単位や政策単位」というのは、ショートフレーズになり過ぎている。「課題」がどのレベルを示しているのかが分からない。
- ・(2) について、海外については、情報発信だけでなく、受信や情報収集も遅れている。
- ・文章をもう少し工夫してほしい。
- ・環境情報戦略案の1～3までは、今後変わらない内容を書くという理解でよいか。

2 環境情報のあるべき姿と戦略の目標

- ・(1) 情報の提供に関する課題③について、「(情報利用者のニーズを) 意識した」は「想定した弾力的な」といった表現が適当。また、「容易に(得られる)」と言った場合、入手や操作が容易である必要である。
- ・(1) ④について、「情報の整備」の定義は、なぜ、この場所で定義されているのか。
- ・(1) ⑤について、「経済社会は相互に密接に関わって」いるのは、ローカルからグローバルまで、また、国内外にわたる旨を明らかにした方がよい。
- ・(1) ⑤について、「(環境問題やその背景となる経済社会の) 相互の因果関係」という言葉は不適切で、「相互の関連性」でよい。

3 戦略の基本的枠組

- ・(1) 戦略が対象とする情報の整備の主体について、「(情報の整備や各段階での) コーディネート」とはどういう意味か。公的機関でばらばらに行われていることのコーディネートが重要ではないか。
- ・(1) について、「各段階」というのは、情報整備の各段階という意味か。
- ・(1) について、「情報が様々なニーズを有する幅広い主体に利用されるものであることを十分認識して整備するよう促す。」のは誰か。
- ・(2) 戦略が想定している環境情報の種類及びその用途について、「環境情報の定義」はあった方がよいのではないか。
- ・(2) ②について、政府機関等による政策立案と研究機関の研究等の基礎データとしての利用は区分すべきではないか。政府機関等は、目達計画の見直しや温暖化対策

の地域計画立案等が一番の使われ方ではないか。その点が弱い。

- ・(2) ②における国外の扱いについて、一般国民等の情報の用途について、国内も国外も同じレベルで出せるのか、使ってもらえるのか疑問。最後に「国外における情報の利用者についてもこれに準ずる」旨書き加えるような整理でよいのではないか。

4 戦略の基本的方針

- ・(1) 情報立脚型の環境行政の実現のための情報整備と活用について、タイムリーな情報の収集と提供ということが入ってもよいのではないか。
- ・(1) ①政策立案に必要な情報の把握と計画的整備について、「環境と経済社会活動」については、「関係する情報」だけではなく、環境と経済のそれぞれについてベースとなる情報を整備する必要はないのか。
- ・(1) ①について、モニタリングは、自然環境だけでなく低炭素社会づくりなどからんだ都市や人工環境についても必要ではないか。
- ・(1) ①について、5 (1) ⑦環境情報の収集、整理、提供に関する国際協力ネットワークの強化・構築と対比して考えると、4 (1) においても、海外向けの情報収集、整理に関する記述が必要である。なお、4 (2) ⑥海外への発信と5 (2) ③海外に対する情報発信の強化は対になっている。
- ・(1) ④について、「戦略のPDCAサイクルの実現」というのは変なので、「情報整備のPDCAサイクルの実現」に修正してほしい。
- ・(2) ①環境情報の体系的整理について、第一文では、DSRフレームについて述べ、第二文とは異なる内容になっているので、「このため」は「また」に修正すべきである。
- ・(2) ①c) について、a) b) と対比しても、DSRの意味からしても、因果関係というものは不適切である。
- ・(2) ②情報の信頼性、正確性等の確保について、(不適切な)「行為による」という表現にしなくてもよいのではないか。

5 当面優先して取り組む施策

- ・(1) ⑧ITの活用による環境情報の収集について、検索、収集に限らず、流通、普及も入れてはどうか。
- ・(2) ⑤環境情報の信頼性、正確性の確保等について、環境情報の信頼性、正確性等の確保のための措置がグリーン購入に係る措置だけというのはよくないので、「そのための当面の措置の1つとして」という趣旨の表現を挿入してほしい。

6 戦略に基づく施策の進行管理等

- ・「戦略の進行管理」という用語はおかしい。KPI (Key Performance Indicator) によりフォローする内容に該当するものが進行管理の対象なので「戦略に基づく施

策の進行管理」とするのが妥当である。

7 その他

- 環境情報戦略案のイメージ図について、もう少し立体的（三次元的）にイメージできる絵となるよう工夫した方がよい。情報戦略によって、「環境行政の推進に資する（ポリシーメイクをする）」「環境情報の円滑な提供」を目指すことが大きな柱のほずである。「戦略は、これらが推進されることを目指している」ということが基本的枠組の図柄から分からない。